



学校統廃合問題は、 全市民の問題では、

吉川 三津子 議員

全市の動向をみて検討する

教育部長

立田八開学校統廃合に

ついて、チラシなどで情報飛び交い、本当ですかという問い合わせが多数届いているので何う。

スクールバスは、どの範囲の子が利用でき、また現在立田で一番遠い自転車通学生徒の距離は。

教育部長 小学生が4キロ、中学生が6キロという国の基準を基に、安全面を踏まえ再検討していく。また現在、立田中の川平地区生徒が6キロ、

福原地区生徒が6・5キロを自転車通学している。

数年でバスが有料になるという話も広がっている。市の方針は。

教育部長 無料で考えている。集合場所は、保護者説明会で子育て支援センターなどとの連携の要望もあり、それを踏まえて検討している。

八開地区では、避難場所や学校の伝統行事がなくなってしまうとの不安

の声があるが。

教育部長 避難場所は、財政跡地検討作業部会で検討中だ。学校での伝統行事等も、新しい学校で継承していく。

市内全校の6年後の全児童数と12年後の生徒数の予測をした(下表)。

この現状を市民に知らせるべきで、開治小は2学年で16名だ。県教育委員会の基準では、複式学級の可能性がある。また、中学ではクラス数が減る

と、専門教科の先生の配置がでなくなる可能性もある。その想定は。

教育部長 議員の指摘通りだ。市教育委員会は、出生数等を踏まえ、このままでもいいのかではなく、このままではいけないという思いで提案している。

3学級になると中学では、教頭・教務・校務・養護教諭を含めて9人の配属になるので、専門9教科全ての教師を配置で

きるかは難しい。

6年後、永和小の児童数は4割減少し、12年後永和中の生徒数は、現在の立田中の約半分になる。佐織中、勝幡小、西川端小の減り方も深刻だ。

真剣に「子供の教育」という視点で、全市民に関心を持ってもらうべきではないか。

教育部長 立田八開地区だけの問題ではない。全市の動向に注視し検討していく。

	未就学児の人数						小学校		6年後増減	中学校		12年後増減
	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	6年後の 全校児童	現在の 全校児童		6年後の 全校生徒	現在の 全校生徒	
永和	37	35	35	49	55	45	256	435	-179	107	223	-116
市江	27	35	32	41	37	42	214	229	-15	430	569	-139
佐屋	79	76	92	84	102	80	513	615	-102	209	340	-131
佐屋西	29	34	26	41	40	30	200	226	-26	169	344	-175
北河田	43	36	47	43	52	49	270	347	-77	98	193	-95
勝幡	22	34	27	36	28	31	178	241	-63	81	111	-30
草平	26	32	48	35	54	33	228	331	-103			
西川端	20	22	21	28	21	35	147	218	-71			
立田南部	15	10	16	16	23	23	103	178	-75			
福原分校			1			2	3	0	3			
立田北部	15	21	20	19	24	28	127	165	-38			
開治	5	11	20	10	9	16	71	85	-14			
八輪	14	12	19	18	16	17	96	107	-11			

(注) 将来の転入・転出人数を考慮せず試算した。

▲6年後の児童数&12年後の生徒数(学校別)